

# 02 お世話になった方々への 1年間の感謝の 気持ちを表すには？

担任経験5年目・女性

例年、当たり前のように行っている感謝の会ですが、どうも「形」ばかりのものになっている気がします。子ども自身が「ありがとう」を実感して心を込めて感謝の気持ちを伝えるようにする会にする手順を教えてください。

**A** 多くの人に支えられて成長してきた、自分たちの姿を確かめさせよう。

自分たちの成長を支えている人々の存在にあらためて気づかせ、感謝の気持ちと自分たちの成長ぶりを学級で共有する。その上で、お世話になった相手に応じた感謝の気持ちの伝え方を工夫させる。

## 戦略の構造

### 子どもに醸成したい意識

- この1年間、みんなが成長してきたのは、支えてくれる人たちがいたからこそだ。
- 1年間のまとめとして、お世話になった人々に感謝の意を表そう。

### 支えている人々に気づく(子どもたち)

家族はもちろん、家を出てから帰宅するまでの間にお世話になっている人々について話し合う。



安全の見守り、学習や学校生活のサポートなどの視点から、お世話になっている人々を整理する。



この人々のおかげで安全だったこと、成長できたことを確かめ合う。



### 感謝の気持ちを促す(教員)

感謝の気持ちの表し方について、これまでの経験をもとに話し合わせる。



自分の成長と照らし合わせて、どの人にどんな感謝の気持ちを伝えたいかを考えさせる。



感謝の会を開く、あるいは個別にお礼を伝えるなど、学級・学年としての方法を決めて準備を進める。



「ありがとう」という素直な気持ちを表現し合える学級

## 感謝の気持ちを考えさせるポイント

### 💡「当たり前」を「ありがとう」に!

地域の方が、登校のときに、いつも同じ場所に立っていて、「おはよう」と声をかけてくれる。雨の日に昇降口の入り口で、モップをかけてくれている。子どもたちにとっては、「当たり前」となっている日常光景を、あらためて自分たちの安全を見守ってくれている、仕事でそうしている人もいれば、ボランティアの人もあるという視点で見直すことを促したい。この自分たちを支えてくれる人々がいるという事実認識なくして、感謝の気持ちは生まれにくい。

### 💡感謝の気持ちの表し方を選択する

自分たちの成長を支えてくれている人々に感謝の気持ちをもつことは、自らの成長への気づきや自覚につながる。その際、お世話になっている当事者であるという意識を強化する働きかけを工夫したい。その上で、お世話になった感謝の気持ちを表す相手に応じて、どのような機会を設定するかを学級で話し合い、方法も選択させるようにする。これまでの経験を振り返り、そこにひと工夫加えて、気持ちのこもった表現方法を考えさせることを大切にする。

### 日頃、お世話になっている人について話し合おう!

- 1 班ごとに、どのような場面でもどのようにお世話になっているかを話し合う。
- 2 班で話し合った「お世話になっている人」を全体で発表し合い、黒板に整理する。
- 3 登下校時、給食、学習中、放課後など、場面ごとに様々な人にどのようにお世話になっているかについて意見を述べ合う。

いつも階段をきれいにしてくれる人もいますよ。

学校に来るときに挨拶してくれる人もいますよ。

事故に合わないように見ているよ。



授業中にアシスタントの人がいることもあるよ。

こうしてみると、たくさんの人にお世話になっているんだね。

そうだね。気づかなかった人もいたよ。



### お世話になっている人

登下校の安全  
道に立っている地域の人  
あいさつ運動のPTA  
安全見守りの人

おいしい給食  
えいよう士の先生  
ちょうりいんの人  
はいぜんの人

### 学習

先生たち/支援員

\*学校をきれいにしてくれる  
用務員さんや事務の人

### 感謝の気持ちの表し方を工夫しよう!

- 1 これまでの経験をもとに、感謝の気持ちの伝え方を話し合う。
- 2 お世話になった人に合わせて分担し、感謝会を行う。(誰がどの方法で感謝の気持ちを伝えるかを話し合う。)

#### 「ありがとう」の気持ちの伝え方

- 手紙：お世話になったこと⇒ありがとうという気持ちが伝わる言葉を選んで書く。
- 色紙：学級のみんなの気持ちをまとめて伝える。
- メッセージカード：たくさんの人に渡せる。
- お礼のあいさつ：言葉で直接伝える。

